函館商工会議所
會報

商工業者の皆様、業界発展のため揃って函館商工会議所の会員になりましょう

函館市鶴岡町1番地
発行所　函館商工会議所
電話代表②1181番
発行人　高間　勉

産業会館の実現へ

会議所も乗り出す

新たに建設委員会設置

本会議所の第十二回常議員会（出席議員二十一人）は十一月十七日正午から開催、産業会館（仮称）建設問題などを討議、午後一時十五分散会した。

まず加藤会頭から市民会館建設促進運動（函館支部）、文化団体が準備会を懇談会をひらくなど緊密な連携を保ちながら市当局に対しても本格的に働きかけることなどの経過が説明された。なお終戦後に会頭は函館の設置論が各議員から強調された。会館の名称は建設案もつくって目下活発な運動をすすめているが、この際、函館の経済界からも市当局に強力な建設陳情運動に乗り出すべきだとの意見が出た。

中小企業設備近代化促進の為の亀田、七飯、大野、上磯の四町商工会長理事などと本所議員の経済懇談を開ら併せて町村合併の気運を盛り上げた。運動促進に手満場一致の賛成を得る。これも

法人税の延納

誰にでも出来る

半年に一回の申告が法人税の納期である。金融引締や物価の値上り、事業経営者にはいろいろと窮屈な近ごろである。

会社を設立した以上、もうけるのが北法であるが、これを防ぐ為に専業して法人税の申告を納付期限を忘れることがあるとなにに日一日と延滞税や加算税は分に加算されてくる。なお、毎年納めなければならない税金から少しでも楽になるよう法人税の納期内に申告税額の半分納めると残りは二月の延期をして貰えるという有利なお話がある。

これは、期限内に申告書請書の用紙を提出すれば自動的に延納が認められる。簡単な延納申請書の用紙は税務署と税理士事務所に備え付けてある。

40年勤続が四人

優良従業員を表彰

商工従業員表彰式は十月十二日午後一時から本所二階講堂で行なわれた。表彰を受けた人達は次の諸氏である。

◇四十年勤続　塚本勇吉（相馬商事）、北川勝造（相馬商事）、高島富蔵（金森商船）

◇三十年勤続　金森治郎（江良商工）、藤本義雄（金森商船）、中松三太郎（函館地方運輸）、小林鶴松（共同運輸）、中村三郎（同）、青井博（同）、小林鶴松（共同運輸）、水木誠（同）、小田島広七（宮崎容器）、藤沢武雄（亀山製材所）、原吉（同）、小林鶴松（共同運輸）、中村三郎（同）、青井博

給食センター建設計画
具体化へ一歩前進す
設立発起人に15商社

函館商工会議所は中小企業経営の合理化と従業員対策の一環として予ねから給食センターの設立を計画し、アンケートを発し設立の可否を関係方と具体的な調査を進めてきた。

今回のアンケートでは既存の自己給食施設を持っているものを除いた百十一事業所（従業員百人）が参加希望の回答を寄せるなど設立計画に対する各事業所の動向も一応メドがついたので十月十日、本所の卸小売商業、工鉱業部会等の開き調査を検討したところ市内の各事業所代表を招き意見を聞いてみようとの結論に達した。

よって本所は十一月六日第一回の打合せ会議を開催し、事業所一時から議員室に十四名の事業所代表を招き給食センター設立懇談会を開催、説明、意見を交換した。

ところ会員設立に賛同し可的に実現を期することに決定した。

西の各藤業務課は設立計画の具体案作成を急ぎ、本州各地の給食センターの実態調査のため十月二十六日から函館市に出張した。

設立計画の概要によると①給食センターは協同組合または株式会社によって運営する②設立資金は給食センターを利用する事業主の分担金三千万円と年金福祉事業団から低額の融資ろ資材（鉄骨造）約四百坪、本館定温冷蔵庫（冷凍）約百坪、冷凍庫約百坪、高度冷蔵庫約百坪、ボイラー室、ディーゼル発電機、ボイラー室、ディーゼル発電機、ボイラー室、ディーゼル発電機